

「御言葉力の up」 ～御言葉を蓄える～

ヨシュア1：6～9、申命記6：4～9

私たちの視線がゆっくりと流れていて、何かに気づこうという思いがあれば、物事に気づくことができます。そして、私たちは生活の中でいつも何かにピントを合わせて見ていて、それは目の前に起こる多くの情報に基づいています。例えばチューリップを見て春だと気づくのは、チューリップが春に咲くものだと知っているからなのです。このように私たちは、記憶にある情報に目や耳などから入ってくる情報とを結びつけて判断しているのです。だから、あなたの記憶に入っているものがよいものであればよくなりますが、悪いものであれば悪くなってしまいます。あなたは情報をどのように受け取っていますか？そして近頃私たちの語彙力が少なくなっているとも言われています。「愛」といわれてどれだけの表現ができるでしょうか。本来はたくさんの方で言い換えることができるのですが、愛といわれると私たちの多くは自分の知っているものしか出てこないのです。だからもし、あなたの語彙力、つまり記憶やその言葉に対する価値観を増やすことができれば、複数の思いをもつことができ、様々な方法、表現で人に愛を流す事ができます。表現をしっかりとしていかなければその言葉が本当に事実なのかどうか受け取りにくくなります。そしてあなたの価値判断基準が何に基づいているか見直さなければなりません。私たちの生きる基準が過去の記憶に基づく判断ではなく御言葉に変えられれば感情で判断して揺るがされるようなことがなくなるのです。(ヨシュア1：6～9) 神はあなたに与えた地を受け継ぐために、「強くあれ、雄々しくあれ」と言った後、「御言葉を蓄えなさい」と言いました。そして御言葉を蓄えることこそ、強く、雄々しくあるためだと語っています。強く雄々しくあるためには御言葉に立っていないとできないのです。あなたの不安な感情が出てきた時点で強く雄々しくないのです。だから「この律法の書を、あなたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさまなければならない。そのうちにしるされているすべてのことを守り行なうためである。」(ヨシュア1：8)なのです。「私がきょう、あなたに命じるこれらのことばを、あなたの心に刻みなさい。」(申命記6：6) 神は、神を愛しなさいといった上で、御言葉を覚えなさいと言っています。それは神を愛するとは神の命令を守ることであり、命令を守るためには御言葉が必要だからです。つまり神を愛することと命令を守ること是一緒なのです。御言葉を覚える目的は、実践する為だけでなく、踏みはずしそうになったときに、過去の記憶ではなく御言葉を土台にすることで、それが支えとなり、たとえ感情的に失敗したとしても、立ち直ることができるようにするためなのです。御言葉を覚えることを通して、心がしっかりとし、神を愛することができ、神の声がよくわかり、祝福を受けて神の愛を実感できるのです。だから御言葉をしっかりと覚える必要があるのです。心に御言葉を刻むとはイエス様の十字架の御言葉を刻むこと、つまり聖書に書かれている十字架を受け入れることです。御言葉に書いてあることを素直に実践することは大切ですが、よく理解してやらないと意味がありません。それでは聖書を頭につけたバリサイ人と一緒です。あなたが記憶している御言葉は神の人格そのものです。しかし神からのメッセージが語られてもそれをきちんと受け取る準備ができていないと受け取れないのです。御言葉をしっかりと覚えていればまがった解釈をしなくて済みます。命令を守るためにもしっかりと理解しておく必要があるのです。神の権威を帯びているのであなたが御言葉を発することでロゴス(記憶されている、書かれている御言葉)がレーマ(今、神によって語られることば)になって働くのです。だからこそ私たちの口から神の権威を帯びた言葉が発せられることに意味があるのです。「みことばはあなたの近くにある。あなたの口にあり、あなたの心にある。」(ローマ10：8) 私たちの言葉には影響力があります。御言葉に「～かもしれぬ」なんてありません。1つ1つ決断ができるのが御言葉のすばらしさです。だからしっかりと御言葉を記憶しなければなりません。御言葉を覚えるために自分の人生と関連付けてください。もし忘れられない悪い記憶があるならばそれを神の前に出し、忘れた後に御言葉を当てはめ関連付けてください。あなたは今御言葉が蓄えられていますか？あなたが信仰を持ったときに「こう生きる」と決めた御言葉を土台としてそれに複数の御言葉をおぼえるようにしてください。あなたが強くあるために①御言葉を読みましょう。覚え、蓄えるためにも聖書を読みましょう。“もし私が〇〇な時”に必要です。落ち込んだとき、悲しんだとき、何によって回復しますか。その時、励ましてくれる御言葉が側にあるようにしましょう。②御言葉を覚えましょう。日常生活の中でとっさの判断でも御言葉によって判断ができるように覚えましょう。③御言葉を口ずさむ。口ずさまなければ忘れてしまいます。だからしっかりと口ずさみましょう。誰かに御言葉を言うようにしましょう。口ずさんでも意味がわからなければ、意味がありません。しっかりと意味を理解して相手に伝えていきましょう。あなたの口から出る言葉がいつも御言葉に基づいて出るようにしましょう。御言葉を語る時に、神の言葉といわなくてもよいのです。御言葉自体に力があるのであなたの口から出る言葉が神の言葉になりさえすればよいのです。いつもあなたの口からイエスキリストの香りが香るようにしましょう。御言葉を覚えるのは神が私たちの発言どおり働くためです。★以下にあげる事を参考にしてみてくださいはいかがでしょうか。いのちのことば(ピリ2：16)、真理のことば(エペ1：13)、救いのことば(使13：26)、和解のことば(Ⅱコリ5：19)、十字架のことば(Ⅰコリ1：18)